

り<sup>斷せ</sup>を實行せり。又市町村を始め公私公共團體に於ても最善の方法を講し、此曠古の大典を永遠に記念せんために各種の事業を企てたり。特に忝くも百餘年來廢絶せし古禮を復興あらせられ、忌部氏鹿服貢進の儀を行はれしは、縣の光榮これに過ぐるものなかるべく縣民の永く忘るべからざる所なり。かくて縣民益々皇恩に感激し奉公の念彌々盛なるに至れり。

### 第九章 總括

吾人はここに本縣郷土二千五百餘年の沿革を叙したり。上古を顧みれば我郷土其開化頗る古く、古典建國の神話に既に其名を存し、神武天皇の御代忌部の民既に産業の基を開く。爾來中古に至るの間史料甚乏しと雖も、戸口次第に滋殖し産業亦漸次發

達せしことを察するに足る。近古武家の世となりて時に地方の騷亂に遭ひ、住民塗炭に苦しみしことありしと雖も、近世に至りて江戸時代の泰平に遭ひ、蜂須賀氏の治下文教盛に起り産業大に發達し國富年を逐うて加はれり。明治に至り時勢一轉再び朝恩に浴し、最近五十年間人文大に發達し教育益々普く産業彌々興り、我縣民は其祖先の未だ嘗て逢はざりし幸福を享くるに至れり。明治大正の御代に生を享くるもの須らく既往を追懷し先人の遺業を繼ぎ、協心戮力先帝の勅旨を奉戴し、産を治め業を興し以て國富を増進し、身を修め風を化し以て淳厚の俗を作り、報國の至誠を披握せずして可ならんや。

### 德島縣郷土史 終



大正七年十一月十五日印刷  
大正七年十一月二十日發行

編纂發行所兼

# 德島縣教育會

發行人

德島縣德島市寺島町  
百五十七番屋敷

萱 生 國 吉

印刷人

德島縣德島市富田浦町字西富田  
千四百十六番地ノ一

島 正 太 郎

印刷所

德島縣德島市富田浦町字西富田  
千三百二十四番地ノ一

一 新 印 刷 部



354  
124



終